

●ことばの「カタチ」の学問

「イミ」 → 哲学

「オコナイ」 → 社会学

ことばの研究は、「言語学」の専売特許ではない。

医学的アプローチ

工学的アプローチ

教育学的アプローチ

法則性・体系性・一般性 を 見つける

データ重視 言語学科

モデル重視 ○○語学科

「社会学」で観察される現象がことばの「カタチ」に作用 → 社会言語学

★困った質問

- ①「人間の言葉は、どのようにしてできたか？」
- ②「言語と思考／認識は、どう結びついているか？」
- ③「ことばの『乱れ』について、どう考えるか？」
- ④「日本語は、どのようにして形成されたか？」

●言語の分類

- ① 歴史的（系統的）分類 → 比較言語学 ※対照言語学は別物
「枝分かれ」で図示 語族 ≧ 語派
「基礎語彙」の「音韻対応」が重要（文法上の類似は二の次）

- ② 地域的分類
ブロック 諸語

- ③ 類型的分類 → 言語類型論（古典的／新しい）
ドット

●言語学史

- ① 近代以前
「文字の成立」
古典文法（規範的／実用的／「哲学」との未分化）

(古典的) 言語類型論

- ② 比較言語学

歴史的・記述的

- ③ ソシユール

「言語学」の確立

- ④ 構造主義

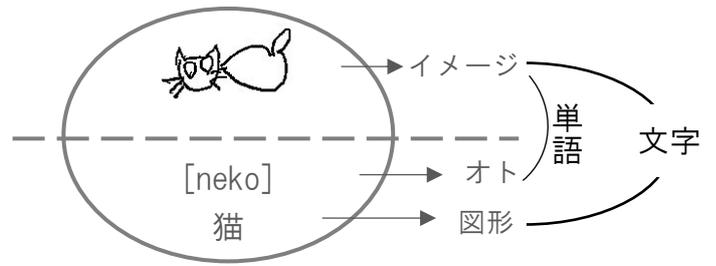
ヨーロッパ → アメリカ合衆国
4つの研究レベル

- ⑤ (「生成文法」などの) 新しい流れ

● ソシユール

① 「記号」とは何か？

言語は、記号の一種（代表例）



2つのモノが（ある社会で）結びついたものである → 二面性

シニフィエ／シニフィアン = 所記／能記 = (記号) 内容／表現

ある社会の約束 → 社会性

必然的結びつきではない → 恣意性

② 言語記号の特性



横並びの関係 構造／統合関係 → 線状性

取り替わるセット 体系／連合関係 → (分節性)
並立など

③ 二元論的研究感

ラング／パロール 規則としてとらえられるか（価値があるか）／否か

通時態／共時態 時の流れに従って観るか／ある時のシステムとして観るか

(共有されている)「ラング」が言語学の観察対象

共時的研究に軸足を移す → 構造主義

●構造主義

共時面の重視

ヨーロッパ → アメリカ合衆国

★4つの研究レベル (I IIはオト(オン)、IIIIVはブンポウ、と大別可能)

I 音声学 人間の音声を「物理的現象」としてとらえる

IPA 精密表記／簡略表記 []でくくる

II 音韻論 (音素論→配列論と2つに分けて考える)

II-A 音素論 ある言語で、意味の違いに関わる単位「音素」を認定する / /

II-B 配列論 ある言語で、「音素」に関数る構造／体系を考察する

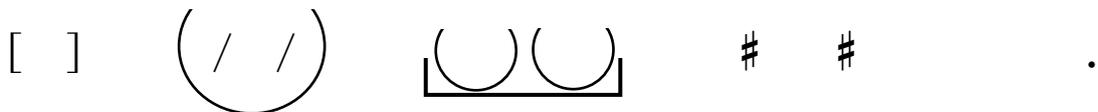
III 形態論

ある言語で意味を持った単位「形態素」の認定 → できるだけ細かく

日本語文法とずれ → 「語 (w o r d)」の認定は研究者に委ねられる

IV 統語論 (=構文論)

「一まとまりの考えを完結させた言語形式(=「文」)」について考察する



標本
I

袋
II-A
◆異音

しきり
II-B

貨車
III
◆異形態

列車
IV

単音

音素

音節
(日本語では拍)

形態素

文



「語」はカスタマイズする概念

IPA

・精密 (聞き得る限界)



・概略 (意味に関係しない。区別はしない)

●基本的な文法概念

- ★ 定／不定 知っているか／知らないか
- ★ 数 数えられるか（幾つあるか）／数えられないか
- ★ 性（クラス）形態／機能などに由来する分類
- ★ 格 分の中での機能を（形に）反映させたもの

▲ 人称

▲ 対極性（肯定／否定 Yes／No）

▲ 時制（テンス）

▲ 相（アスペクト）

▲ 法（ムード）・法制（モダリティ）

▲ 態（ヴォイス）

▲ 使役（コーザティウ）

●言語相対性

強い仮説 言語が認識を縛る（決定論）

弱い仮説 縛らない

最近は、「『サピア=ウォーフ』の仮説」とは言わない傾向

●生成文法

N・チョムスキーが「仕切る」

どうして出てきた

個別言語の文法は遺伝しない

生後短期間で出来上がる

思春期を過ぎると習得不能

個体差が小さい

→ 説明したい

言語構造の「普遍性」

「言語獲得装置（脳）」の優秀さ ヒトに備わった生物的能力 → 『^{せいとく}生得性』

- ① 認知主義
- ② 普遍性の追及（と英語中心主義）
- ③ 複雑な定式化
- ④ 理論展開の早さ

知っておくべき用語

文法性 → 文 / 非文（初めに*を付けて表示）

言語能力（コンピテンス）／言語運用（パフォーマンス）

深層構造／表層構造

習うなら「英語学科」へ

● (古典的) 言語類型論

屈折

		ラテン語	一つの(文法的)形態素に複数の情報をつめる
	a m \bar{o}	私は愛する	
語幹	一人称 単数 現在 直説法		

膠着

日本語	一つの意味を持った(文法的)形態素を順序よく並べる
書か-せ-られ-ませ-ん-でし-た-か	

孤立

中国語			
我 打 他。	私は彼をなぐります。	(文法的)形態素の省略	
他 打 我。	彼は私をなぐります。	語 = 形態素	

抱合

グリーンランド語		
kivfi-lior-nuar-umagaluar-p-unga.	語 = 文	
コーヒー 入れる ~しよう よろこんで 三人称 一人称化		

● (現代の) 言語類型論

語順 S が O に先行する言語がほとんど

音韻

その他の文法的現象

能格性 自動詞主語と他動詞目的語を同じ扱いにすること